体育授業を通して、運動に親しむことのできる児童の育成

本務校名：岡山県久米南町立誕生寺小学校

配置教員名	木村　航大
担当学年	1. 久米南町立誕生寺小学校 全学年 2. 久米南町立弓削小学校　全学年 3. 久米南町立神目小学校　全学年

Plan：取組時の課題と目標

1 取組時の課題

（1）環境要因

授業準備の時間がない。主体的に運動に取り組む仕掛けがない。

（2）体育指導関連

専門知識を持った教員が少ない。体育熱に差がある。

（3）調査結果関連

新体力テストの結果から、握力と投力が低いことが分かった。

（4）児童の実態

活発に遊ぶ児童が多い反面、運動に対して苦手意識を持っている児童も一定数いる。

2 取組の目標

（1）環境要因

授業前に体育ができる環境づくりを行ったり、体育の教材研究を行って授業の提案をしたりするなど、授業をより充実させる。

（2）体育指導関連

体育の専門知識を有する専科が担任の先生と相談をしながら授業を行うことで充実した授業を行うことができる。また、先生方の体育授業に対しての授業の指針にもなる。

（3）調査結果関連

それぞれ低かった項目の力が伸びるような仕掛けを行う。

（4）児童の実態

アンケートの結果で、「運動が好き」と回答する児童が９０％以上、「体育の授業が楽しい」と回答する児童が９５％以上に達する。

Ｄｏ：取組の内容

（1）体育授業の工夫と充実。

（2）定期アンケートを実施（4 月、7 月、12 月、3 月）し、児童の変化を見取る。

（3）県外視察や研修で得た内容を校内で共有し、取り入れられるものを積極的に活用する。

（4）授業外に児童と一緒に体を動かす。

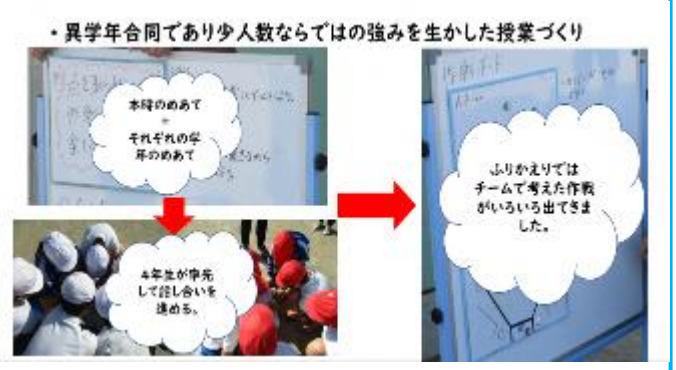
（5）主体的に力を伸ばす環境づくりを行う。

●工夫したこと

（1）体育授業の充実

①　みんなが主体的に参加できる環境づくり

異学年合同で授業が行われているため上学年が下学年を先導しながら授業を行うことができる。また、少人数で学習が進められるため、児童一人一人に対して手厚いサポートを行うことができる。



ほかにも「誕生寺オリンピック」の種目を見直した。体育の授業と関連付け、児童が授業の目標をもちやすくしたり、見学者カードを作り、見学者も一緒に授業に参加できたりするようにした。

②　“やってみる”を大切にした授業

児童が主体的にやってみようと思えるようにスモールステップで取り組める場づくり・安心に活動できる場づくりを行った。ほかにも児童同士でアドバ

イスをし合ったり、褒め合ったりなど声を掛け合いながら明るく授業ができる雰囲気づくりを行った。

③　TT の強みを生かした授業づくり

全体指導と苦手な児童のサポートに分担しながら授業を行うことで、児童のつまづきや不安感にすぐ気づくことができ、苦手な児童も安心して授業に参加することができるようにした。

④　地域の方を講師にソフトボール投げ指導

地域のスポーツ推進委員で、野球経験者でもある方をお招きし、5・6 年生を対象に投げ方の指導をしていただいた。より専門的なコツを教えていただくことができた。

⑤　授業を一緒に楽しむこと

授業の中で児童と一緒に教員も参加し、運動を楽しんでいる様子を見せることで、児童も安心して参加できた。また、教員との競争心に繋がり、主体的に参加するきっかけにもなった。

（2）体育授業外の取組

新体力テストの結果から握力や投能力が低いことが明らかになったため、児童が主体的に力を伸ばすために、児童玄関に握力計コーナーを設置した。他にもジャンプ力を伸ばすための場づくりも行った。

Ｃｈｅｃｋ：取組の成果

４月、７月に実施したアンケートの結果から、「運動が好き」「体育の授業は楽しい」の両方とも８０％以上は維持しているものの、上がったり下がったりのふり幅がある。良かった点としては、運動をするのは苦手だが、友だちと一緒に体育の授業で活動するのは楽しいと感じている児童や、「誕生寺オリンピック」を活用することで目標をもって活動できた児童が増えたことと考察できる。課題としては、けがをしてしまった児童が否定的な回答をしていたので、安全への配慮や、できないことを苦手なものと感じさせないための手立ての重要性を感じた。

・誕生寺小学校（本務校）

運動や体を動かすことは好きですか。

４月		７月
低学年　１００％		低学年　１００％
中学年　１００％	→	中学年　１００％
高学年　９１％		高学年　１００％

体育の授業は楽しいですか。

４月		７月
低学年　１００％		低学年　１００％
中学年　１００％	→	中学年　９３％
高学年　１００％		高学年　１００％

Ａｃｔｉｏｎ：今後の課題

自身の課題としては、「それぞれの場面に応じた指導力を身に付けること」「子どもたちが考える時間を確保した授業づくりを行うこと」が挙げられる。

事業全体の課題としては、３校兼務の場合、兼務校の担任の先生方との打ち合わせ時間を十分に確保することができないことや、休み時間の移動で児童と遊ぶ時間が確保できないこと、体育専科が抜けた後にも体育の授業を充実させるための仕組みが必要だと考えられる。

◎体育授業の充実がもたらす波及効果

・友だち同士を認め合う力

→よかったところやアドバイスなどを伝え合うことで、友だちへ優しく声掛けをすることができるようになると考えられる。

・チャレンジする力

→何事にもやる前から諦めるのではなく、「やってみよう！」という気持ちでチャレンジすることができると考えられる。その結果「できた！」という達成感が得られ、また次回からもチャレンジしてみようという気持ちが身に付くと考えられる。

以上の二つが体育の授業で子どもたちに身に付く力だと考える。また、子どもたちだけでなく、教職員間でも次の変化があると考えられる。

・担任の体育の授業改善に対する意識の向上

→体育専科と相談をしながら一緒に授業を進めることで、授業の進め方や児童一人一人に対する手立てが明確になり、より体育の授業を充実させることができるようになる。